令和５年度　伊那市立西春近北小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
○　明るい子ども ○　あたたかい子ども ○　かしこい子ども ○　たくましい子ども	・個性を大切にしながらも，集団の一員としての自覚を高め，誰とでも明るく思いやりをもって接することができる子どもの姿を，全教育活動の中でめざす。 ・学習面では，自ら課題と考えを持ち，友と支え合いながら粘り強く追究していく子どもの姿をめざす。
	今年度の重点目標
	⑴かわしあう　あいさつ（自分も人も大切に） ①感謝の気持ちを伝える「ありがとう」の言葉 ②出会った人と交し合う「おはようございます」の挨拶 ③大切な友だちに「さん」をつけて ④心をつなぐ「はい」の返事　⑤相手意識を持っての生活
	⑵ふかめるかんがえ（自ら考え自ら動く） ①興味、関心、意欲を高める ②「探究」を深める「１１」のてだての実行
	⑶あらわすおもい（安心して自己表現できる学校・学級） ①「おもい」のなかみ　②学校生活のいろいろな場面での表現 ③「あらわすおもい」の基盤　④「みる・きく・こたえる」心の育成 ④居場所があり安心できる学級経営

総合評価

○小さな事案も一つ一つ丁寧に対応してきた。児童と教職員の関係が良好で各学級が児童の安心できる場になっている。児童同士も学年の枠をこえて仲が良く，サツマイモの栽培や清掃全校行事などを縦割り活動で行い，結びつきを強くしている。今後も教職員・児童・保護者・地域が緊密な関係性を大切にしながら，子どもたちのすこやかな部分を伸ばしていきたい。
○学習においては，特別活動・総合的な学習の時間を中心に弾力的な話し合いのスタイルで考えを持ったり伝えたりする授業に取り組んだ。タブレットを学用品の一つとして利用することで個人差を少なくし，どの子も自分から学ぼうという意欲につなげてきた。教職員はさらに研鑽を積み，見通しを持って意欲的に学習に取り組む子どもをめざしていきたい。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴①あいさつを通した人間関係づくりを推進しており，８割強の児童・保護者が「できている」としているが，児童によって反応に個人差が見られるため、教師のとらえは６割にとどまっている。 ②「さん」づけについては、実生活を見ると、呼び捨ては減ったが「ちゃん」づけが目立つ。	A a	①ひとりひとりの児童の姿に気を配り，少しの変化も見逃さず，迅速に対応する。 ②児童会活動を通して、玄関前でのあいさつ運動と共に、縦割り活動を使って、チームとして楽しくあいさつに取り組めるように工夫してきた。今後も続けていく。 ③自分の気持ちを伝えることを、生活目標に掲げ、振り返りも繰り返し行っていく。
⑵①ICT 機器、タブレット等を活用して、自分の考えを伝える手立てにする担任が増えた。児童も使い方に慣れ、学用品の一つとして定着しつつある。リテラシー教育にも取り組む事ができた。今後も外部講師を招くなど、理解を深めていきたい。 ②「具体物・資料の準備」等、授業準備に力を入れて臨む姿勢を継続している。 ③子どものつぶやき・発言をいかして授業構想していく方向性を大切に取り組めた。ペア・グループでの方策は友だちの考えを尊重して学習を進めることができた。	B b	①つけたい力を明確にし，メリハリのある授業のための教材研究を行う。 ②外遊びを奨励し，多様な動きの経験の場を保障する。 ③学級活動や生活科および総合的な学習の時間等を通して，仲間とともに考える場面を多く取り入れ，仲間意識の醸成を図る。 ④グループやペアでの話し合いの仕方を学ぶことを通して協同性を育てていく。
⑶①「話を聞く」点についてはできていると認識しているが，自分の考えを友だちや教師に伝えることに苦手意識を持つ子が比較的多い。 ②授業を通して安心してその基本となる安心できる学級経営が実践できた。	B a	①今できることをできる形で学級・児童会・学校としてアイデアを出し、全校を巻き込んだ活動が少しでもできるように配慮する。一体感が生まれる活動を実施していく。 ②ひとりひとりの実態を正確にとらえ，その子に合った適切な支援を行っていく。そのための教職員の役割分担をみんなで話し合い、多くの目で支えられる体制を作る。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○子どもや保護者，地域の願いや実態に寄せて，特色ある教育活動を行っている。	①地域の実態に寄せた本校の教育課程に沿って，適切な履修がなされている。 ②地域との交流を目的とした行事や教育活動が行われている。 ③縦割り班活動など，学年の枠をこえた教育活動に取り組んでいる。	①昨年度よりさらに、多くの地域の方々が教育活動や行事にかかわってくださり，地域のよさを生かした教育課程編成ができている。しかし，地域素材を学習材として取り上げる契機がなかなかとれないという点で課題もある。 ②交流活動や行事を復活することができ、授業支援や行事支援、クラブ講師など、地域の方々と関わり、積極的に学ぶ機会が多く持てた。 ③縦割り活動の結果，高学年児童のリーダー性が高まり，主体性がついてきた。保護者からの縦割り班活動の良さや成長を感じる声など活動継続に期待する意見が多い。	A a	①コミュニティスクール「ごんげんまなびや応援隊」の活動を活かして、地域に材を求めて学習を展開していく際にコーディネーターの協力を得ながら地域人材を求め，学習が深まるようにしていく。 ②交流の機会を「豊かな心情を育てる」機会として今後も大切にしていく。 ③縦割り活動の効果を検証しながら，教育課程編成に活かしていく。 ④コロナ禍での経験を活かし、活動の目的と付ける力を明確にして、計画立案と変更が少なく持続可能な活動を工夫し実施していく。
	学習指導	○子どもたちは、進んで学習している。	①課題解決に向かって，一人一人の進度に合わせて取り組む授業づくりを行っている。	①高学年を中心に、自由進度学習を取り入れたり、子ども同士で授業を進めたりすることで主体的で対話的な授業に近づけることができた。	A a	①生活科や総合的な学習の時間を通して、課題を持って取り組むことや探究する楽しさを味わう体験や学習を積み重ねることで、課題意識や探求心を育んでいきたい。
		○子どもたちは、授業がわかりやすいと感じている。	①基礎・基本の定着 ②ねらい(つける力)を明確にし，カードを使って授業の流れにメリハリをつけ，ねらい達成の見届けを行っている。 ③わかりやすい授業のための ICT の活用。 ④授業の振り返りを行っている。	①ドリルの時間を位置づけ，短時間でも既習事項について反復学習を行いながら基礎・基本の定着を図ってきた。成果については個人差があるが，個別指導、複数対応での指導をした。個別指導が必要な児童への支援の工夫が今後も必要。 ②タブレットを利用することで個々の苦手を補うことができ、学習内容や自分の考えを仲間と共有する為のアイテムとして広く有効活用できている。 ③担任、授業に関わる教職員との関係性が良く、どの児童も安心して自分の考えを述べやすいあたたかな学級経営ができていることで学習効果も高まっている。	B a	①さらなる定着をめざし，定着の度合いをていねいにみていくようにする。必要に応じて個別指導を行っていく。教科担任制で教師の専門性も活かしていく。 ②iPad の使用法、ICT の活用など、お互いの授業でどのような使い方がされているか教師間で見合い，研鑽を深めていくとともに AI ドリルの活用で定着を目指す。 ③ひとりひとりの児童の実態をつかみ，確かな学力がつくよう，「わかりやすさ」を視点に授業を行っていく。教師と児童がともに考え，ともに議論し，ともにわかっていく授業をめざし，すべての子が積極的に参加できる授業づくりを行っていく。
	生徒指導	○子どもたちは，友だちとよりよくかかわり，楽しく学校生活を送っている。	①学級の児童の実態把握と対応が図られている。 ②どの子にも居場所があり，いじめや不登校が起こらない学級づくり ③保護者と連絡・相談を密に行っている。 ④児童理解を共有し，組織的な対応が図られている。	①Q－Uアンケートの活用や，個人面談を行い，児童ひとりひとりの思いを共有した。 ②コミュニケーションをとることが苦手な児童もいるが，明るく仲よく過ごしている。授業を通して人間関係をよりよいものにしようと話し合い認め合う場を設けた。 ③児童のすこやかな姿も気になる姿も，保護者にはこまめに伝えることができた。 ④イントラネット内の表に記録を書き込んで情報交換を促すとともに、職員会議において児童理解の時間を必ずとったりして，児童について共通理解を図った。	A a	①Q－Uのような客観的な結果をもとに，担任だけに限らず，専科や養護教諭，支援員や外部専門機関等と連携をとりながら，必要に応じてケース会議を開いて対応を考え，ひとりひとりの児童にとって「居心地のいい学級・学校」をめざす。 ②子どもたちの友だち関係を常に把握し，良好な関係になるよう細かく支援する。 ③小さなことも見逃さず，今後も様子をこまめに伝えていくようにする。 ④職員朝会や職員会議における児童理解の時間は継続する。これに限らず，日常的に児童の話題を共有しあえる職員集団をめざす。なにかあった場合，チームで対応する。
学校運営	安全	○子どもたちが安心・安全に活動できるように，校舎内外の環境への配慮をし、災害への対応（自然災害・火災）や交通安全など，安全面について適切に指導している	①定期的に点検が実施され，安全への配慮がなされている。	①施設設備管理は，月１回「安全点検日」に定期的点検が行われ，校務技師の修理も敏速に行われている。 ②校務技師，教頭を中心に，安全に関して校舎内外に目を配った。	A a	①校舎も老朽化しており，施設設備の点検はより確実さが求められる。定期点検はもちろん，毎日の点検を着実に実施し，早期発見，早期対応を心がける。また，日頃から複数の目で点検し，気づいたことを伝え合いながら改修・整備に取り組んでいく。
			①危機管理意識を常に持ち，災害や事故に対する指導を行っている。	①地域・PTA に広くご協力をいただき、昨年度立ち上げた「ながらみまもり」を継続。熊の学習会で野生動物の生態について学び、自分の身を自分で守ることを学んだ。 ②食物アレルギーへの対応についても年度当初に研修を行い，保護者への確認も厳密に行い不測の事態に備えた。	A a	①危険回避に対する学習をし，交通安全について知識理解を深めるとともに，通学路についても改善を図っていく。「ながらみまもり」の普及を PTA と一緒に検討していく。 ②食物アレルギーについては情報を更新し，適切な対応が図れるようにしておく。早期に職員の研修を行い、児童への個別対応を確認しておく。
	地域との連携	○学校だよりや学級通信，学級懇談会、学校ホームページ等を通して，学校や学級の様子をわかりやすく伝えている。	①開かれた学校をめざし，学校や児童の様子について伝え，地域・家庭・学校の連携に取り組んでいる。	①学級の様子が伝わることで，保護者も児童も安心して学校生活を送れるよう，おたよりに写真や児童の感想などを盛り込み，配慮することができた。さらにこまめな配信を心がけた。 ②学校の様子が地域にも伝わるよう，学校だよりを月１回地区内に配布した。また，プレスリリースを積極的に行い，新聞やテレビ，有線放送も活用することができた。	A a	①学級だよりや学校だより、学校ホームページは，今後もわかりやすさとスピーディーさを心がけて配布・配信に努めていく。また，プレスリリースも積極的に利用し，児童の活躍の様子を広く地域に向けて発信するよう心がける。双方向型通信システムの有効利用を進めていく。
		○ＰＴＡや同窓会などの諸団体と連携を深め，家庭や地域の方に開かれた学校づくりをめざしている。	①ＰＴＡ，同窓会，子ども見守り隊，西春近北保育園，春富中等の関係団体や地域にお住まいの講師との交流や連携が図られている。	①「創立・開校１５０周年記念式典」「ごんげんそば打ちの会」「注連縄教室」「ウォークラリー」「マラソン大会」などの諸行事や，総合的な学習の時間・クラブ活動における地域講師との交流を通して，地域とのかかわりを大切に多くの行事を実施できた。「花壇の球根植え」の活動は秋花壇の片付けを含めて環境委員会が一緒に行えた。児童と地域の方の交流を深める良い機会となった。 ②えがおの庭活用のため、老朽化した遊具の補修を行えた。また、PTA の尽力でスケート場作りが今年もでき、１・２年生が冬の体育の授業として取り組んだ。	A a	①学校を支えてくださる諸団体の方々との連携を今後も深めるとともに、コーディネーターのお力を借りながら，地域と学校が児童の活動を通して結びつけるようにしていく。行事によってはコロナ禍を経て変化している内容もあるので，関係団体と協議しながら，子ども達にとって大切と思われる活動は継続しつつ、今後も持続可能な方向を模索していく。

	研修	○子どもたちは、授業が分かりやすいと感じている。	①児童が主体的かつ探究的な学びに取り組むよう，自己課題に寄せた日々の授業改善に取り組むとともに，授業研究が推進されている。		①教科担任制を取り入れ，一時間一時間の授業を大切にしている。ひとり一公開を行って広く授業を見合い学び合うことができた。また、連学年会で授業の進め方を研究することができた。 ②ナンバーズ等を利用し、タブレット内で意見交換を行うなどＩＣＴを有効に利活用し、学力向上へつなげることができた。	B a	①ひとり一公開を継続していく。４５分間参観して研究会を行うスタイルばかりではなく、教師の自己課題への取り組みと主事要請の授業研究会も取り入れ，研究が教師の身近にあるような体制をつくる。学年会での教材研究を活発化したり、教育事務所指導主事訪問を積極的に活用したりして、研究をより身近なものにしていく。
		○子どもや保護者，地域の願いや実態に寄せて，特色ある教育活動を行っている。	①教職員自身の資質向上をめざし，校内外における各種研究会や研修会に積極的に参加している。		①ＡＥＤ操作，ニュースポーツ，非違行為防止、ICT、などの研修を行い，研鑽を深めた。また，各種研究・研修会に，職員が積極的に参加できた。	A a	① 今後も教育公務員としての資質向上をめざし，支え合い切磋琢磨しあいながらひとりひとりの職員の持ち味が発揮されるような研修を計画していく。コロナ禍の影響で、地域に出る機会が失われていた分、次年度は、フィールドワークを行い、職員が地域に出かけ、地域を知ることで、生活科や総合的な学習の時間の充実をはかり、地域とのつながりをさらに深めていきたい。